

登録コード	L1330800	開講年度	2026				
担当教員	菊池 聡			副担当			
授業科目	文化情報論基幹演習						
英文授業名	Cultural Informatics: Basic Seminar						
授業タイトル	Basic Seminar on Culture and Information 1						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・2 時限
講義室	人文 2 1 3 演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 0 2 6 Lカリ, 2 0 2 5 Lカリ, 2 0 2 4 Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				蓄積された先行研究を批判的に読み、自分の研究活動につなげることができるようになる。		
	【2023年度以降加付対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】				身近な現象に問題を設定し、具体的な研究活動から問題解決を試みることができるようになる。		
授業で学べる「テーマ」	その他						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	前期の特別基幹演習で習得した基本の上に立ち、3年生以上の学生は認知心理学領域にテーマを選んで、各自が一つの研究を立案・実施して、そのプロセスを発表・討論する。2年生はグループで、簡単な実験を立案実施するとともに、上級生の研究計画の討論への参加とディスカッションを行う。文化情報論領域の中でも認知心理系にあわせた内容になるが、他領域からでも十分に参加することができる。						
授業計画	1回 研究論文の理解を深める 1 認知研究の基本 2回 " 2 3 年生の選定論文発表とディスカッション 3回 " 3 3 年生の選定論文発表とディスカッション 4回 " 4 3 年生の選定発表論文とディスカッション 5回 " 5 2 年生の研究課題発表 6回 " 6 2 年生の研究課題発表 7回 " 7 2 年生の研究課題発表 8回 研究計画の立案から実施方法を学ぶ 1 サンプル研究計画の検討 9回 " 2 3 年生ブレ卒論レビュー 10回 " 3 3 年生ブレ卒論レビュー 11回 実践的な研究に取り組み、途中経過を報告・議論する 1 3 年生研究計画発表 12回 " 2 3 年生研究計画発表 13回 " 3 3 年生研究計画発表 14回 応用研究をまとめて発表する 1 2 年生レビュー発表 15回 " 2 2 年生レビュー発表。 授業アンケート実施						
成績評価の方法	スケジュールに従って論文講読や計画発表、レポート課題、およびディスカッションを行い、それぞれの学年段階に応じた十分な研究遂行能力を身につけているかどうかを評価して、加算したものを成績とする(100%)。ただし、進行状況によっては、発表内容の理解に関する確認テストを行う場合がある。形成的評価によって学習の支援を行うため、総合成績に占める個別の課題の割合は、実施回数と内容によって変わる。 特に他者の研究発表に対して的確なコメントを産出できるコミュニケーション力を重視する。						
成績評価の基準	それぞれの学年で設定された研究プログラムを完遂するだけでなく、そこに発展的な内容を認めることができ、またその過程で十分な情報活用能力を示すことができれば「卓越している」、研究プログラムを完了させることができるだけでなく、応用的・実践的な情報活用能力が発揮されれば「かなり上にある」、研究プログラムを完成させ、その過程で実践的な能力の向上が認められれば「やや上にある」、研究プログラムを完了して成果をまとめることができれば「その水準にある」と評価する。						
事前事後学習の内容	発表者のレジュメは、事前にeALPS上にアップロードされるので、事前に発表内容を予習した上で授業に参加すること。						
履修上の注意	授業時間は、ディスカッションの進行によって昼休みまで時間が食い込むことが多い。研究の経過次第で、別途時間を設けて特設ゼミを行う場合がある。また必要な連絡はSLACKを利用して行われるので、各自の端末に準備すること。 学生のレポートなどの提出物は、改善点などの参考にするため、授業内で互いに公開（原則として匿名）し、検討の対象とすることがあるので、それを前提に作成すること。 自らの思考力を伸ばすという授業目的に反して、生成AIを「不適切に使用」と判断された場合には、本授業の成績は0点とし、単位は認定されない。						
質問、相談への対応	ゼミ形式の授業であり、授業時間中に具体的な質問を受けつける時間は十分に設ける。また、SLACK,電子メールでアポイントメントを取った上で直接の質問と相談に適宜対応する。 担当教員・菊池のアドレス skikuch@shinshu-u.ac.jpへ。 ただし、多数の授業を担当するため、個人の識別ができないメールについては返信しない。						

教科書	教科書に準拠して進める授業ではない。発表時に紹介する図書や別途プリントで配布する図書を各自が参考とすること。
参考書	森敏昭・吉田寿夫（1990）. 心理学のためのデータ解析テクニカルブック 北大路書房 吉田寿夫（1998）. 本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 北大路書房